

Ⅲ-2 幼児期からの環境学習



環境を大切にしたいという心情を強く感じるとき、私たちの脳裏には幼少期に感動をした体験、例えば、本当に美しい自然の風物や郷土の自然に根ざした命の営みのすばらしさが思い起こされているのではないのでしょうか。それは、春の花たちの生命感に満ちた競演、新緑のすがすがしさと健やかさ、真っ青な空にわき上がる入道雲、夜空に輝く天の川、にぎやかな昆虫たちの生活、秋の美しい紅葉などの自然環境かもしれません。あるいは、私たちを栃木県人として育ててくれた、四季おりおりの行事や祭りの賑わい、地域や家庭の温かい人間関係などの社会環境・文化環境かもしれません。

最近では、子どもたちがそのような体験に浸る機会が減少しているのではないかとされています。幼児から小学生の時期に、そのような良質の「自然体験」と「社会体験」を積み重ねていくことはとても大切なことです。

まずは、子どもたちに、自然の美しさへの感動や身近な自然の心地よさを感じ取る体験活動を仕掛けていきたいものです。

